

目 次

序文		3
目次		6
I 論文	9
1	国際法における文際的視点——歴史、人権、安全保障の問題を中心に	大沼保昭 11
2	「平和に対する脅威」概念の機能的展開とその意義——〈9. 11〉事件への国連安保理の対応を手がかりとして	酒井啓亘 39
3	テロリズム対策における国連の役割	宮坂直史 63
4	力と正当性——国際社会の新しい脅威と武力による対応をめぐって	青井千由紀 85
5	国際社会に対する新たな脅威と日本——「人間の安全保障」の観点から	高橋恒一 101
6	世界の二重構造化と国連	高橋一生 113
7	国際社会に対する新たな脅威と国連の対応 (英文)	ジェフリー・ローレンティ 135
8	国際法の役割と9.11後の国連 (英文)	ブリジット・シュテルン 145
II 研究ノート	171
9	国連エイズ合同計画 (UNAIDS) の特性——いわゆる国際機構間機関の予備的考察として	谷口洋幸 173

III	独立論文	189
10	国連開発計画 (UNDP) の紛争予防に関する新たな役割	
		大平 剛 191
IV	書評	211
1	大内和臣・西海真樹編『国連の紛争予防・解決機能』	川崎恭治 213
2	最上敏樹著『人道的介入——正義の武力行使はあるか——』	水本和実 221
3	渡辺昭夫・土山實男編『グローバル・ガヴァナンス——政府なき秩序の模索』	栗栖薫子 227
4	J-M. クワコウ/ V. ハイスカネン編著 『国際組織 ^{レジティマシー} の正当性』	吉田 脩 233
5	介入と国家主権に関する国際調査委員会著 『市民を保護する責任』	加藤普章 239
V	日本国際連合学会から	245
1	規約と役員名簿	247
2	編集後記	253
VI	英文要約	255
	執筆者紹介	279